# 総　説

## 奈良県の沿革

### 大和は国のまほろば

紀元前３世紀頃、日本列島に稲作がもたらされると奈良盆地は豊かな米作地帯となりました。大陸の高度な文化はこの地に開花し、大和の地は我が国の政治・文化の中心地として中国にならい、都城藤原京（694年）・平城京（710年）が造られ、飛鳥・白鳳・天平の輝かしい文化が醸成されました。

その後、都が平安京に移ったため、一時平城の都はさびれましたが、やがて社寺中心に甦り、鎌倉時代には、大和の国は興福寺・春日大社の荘園で占められるまでになりました。

戦国時代、この大和の地も戦乱が絶えることなく、幾多の興亡が繰り返されましたが、その後織田信長の庇護のもとにあった筒井氏が大和を統一しました。

江戸時代には、綿花・菜種・小豆などの商品作物や、三輪そうめん・吉野葛・宇陀紙・奈良晒・大和絣・吉野杉などの特産品が、隣接する大消費地大阪・京都に運ばれ大和に富をもたらしました。

### 明治20年に現在の奈良県が誕生

明治維新を迎えると、慶応４年１月に大和鎮台が設置され、以後、行政区画の改廃が繰り返されましたが、明治４年には大和国を統一した奈良県が誕生しました。しかし、明治９年堺県に合併、さらに明治14年には大阪府に合併とめまぐるしく変化し、その中で、大和の人々は奈良県の再設置を粘り強く求め続けました。ついに、明治20年11月４日、奈良県の誕生を迎えることができました。明治21年１月９日には、第１回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれています。

明治22年４月１日の町村制施行当時、10町142村２組合村で、人口は50万人ほどでした。その後県勢の発展に伴い、昭和30年前後に市町村合併が促進され、またさらに、平成の大合併で平成16年10月には葛城市が誕生し、平成17年４月には月ヶ瀬村・都祁村が奈良市と、９月には西吉野村・大塔村が五條市と合併し、平成18年１月１日には、大宇陀町・菟田野町・榛原町・室生村が合併し宇陀市が誕生しました。現在は12市15町12村となり、人口約142万人となっています。

### 環境との調和をはかりながら

奈良県は、気候・風土に恵まれているものの、海がなく河川に乏しいという条件もあって、明治以降も農業・林業が産業の中心でしたが、昭和38年から始まった奈良県新総合開発計画をはじめとする県勢の振興計画による産業基盤の整備や公害のない工場誘致等により急速に工業化・都市化が進みました。人口は昭和40年代初めから50年代中ごろにかけて、大都市大阪等のベットタウンとして急増してきましたが平成13年より減少に転じています。そうした中で、大和平野地域に人口が集中する一方、その他の地域では過疎化、高齢化が一段と進みました。そこで、美しい自然環境のもとで、健康で豊かな家庭生活を築きつつ平和で楽しい社会生活を共にし、世界各国とも直結した奈良県づくりの指針として、昭和59年に「奈良県長期基本構想」を策定しました。さらに、その後の社会経済情勢の変化、構想・計画段階であった事業の具体化も進んだため、「奈良県長期基本構想（修正）」を策定しました。そして、平成７年には社会の新たな潮流や本県の特性・課題を踏まえ、「奈良県新総合計画」を策定し、さらに平成13年度からの５か年の県政を推進するための運営方針となる「奈良県新総合計画後期実施計画」を作成し、計画的な県政運営を進めてきました。

### 21世紀、大きく変化する時代の中で

私たちのまわりに押し寄せている「少子高齢化や人口減少などの人口問題」、「地球温暖化に代表される自然や環境の問題」、「情報通信分野などにおける科学技術の急速な進歩」など、これからの社会のあり方を根底から変化させる大きな潮流を踏まえ、県民の皆様と共有する奈良の目指すべき道しるべとして「やまと21世紀ビジョン」を2006年３月に策定しました。

この「やまと21世紀ビジョン」では、子どもたちが親の世代にかわる、ほぼ30年後の2035年を目標年次とし、奈良が育んできた三つの個性（「歴史の“奈良”」「住まいの“奈良”」「共生の“奈良”」）に基づき、住民の皆様の暮らしを、住民の皆様の目線で「安心」「元気」「誇り」「憩い」「未来」とそれを支える「地域経営」のあわせて６つの将来ビジョンにまとめ、描いています。そして、2035年を目途に、難関に向けて果敢に挑戦するブレイクスルー型（現状打開型）の目標として47個の「なら未来目標」を設定しています。

また、あわせて、この「やまと21世紀ビジョン」の着実な実現と県政の緊急課題などの解決に向けて、県が2010年までの５年間主導的に取り組む主な施策や事業をまとめた「やまと21世紀ビジョン実施計画（2006～2010）」を策定しました。

この実施計画の推進を含め、住民やＮＰＯ、企業、行政などができる限り協働して、地域が有する資源を効果的に使い、さまざまな課題に取り組むことにより、「住む人々には安心でこころ豊かな暮らし」と「訪れる人々には感動と満足のとき」を実現し、基本目標である「世界に光る奈良県づくり」を目指していきます。

# 「やまと21世紀ビジョン」の概要

## 奈良の三つの個性と将来像

【三つの個性】

○歴史の“奈良”
　世界遺産など本物に触れ、感動し、満足の時を重ねる

○住まいの“奈良”
　ゆとりあるライフスタイルで、にぎわいのあるまちに住む

○共生の“奈良”
　家族や社会の絆を強め、こころ豊かに暮らす

【将来ビジョン】

○安心（健康、福祉、安全）
　人々が健康で長生きでき、災害や犯罪の被害にあわず、地域で安心して暮らせる奈良を目指します。

○元気（営む、働く、移動する）
　新たな産業が起こり、人々が行きかい、働き、元気に活動できる、活力ある奈良を目指します。

○誇り（歴史文化、支えあい、ゆとり）
　受け継いだ歴史や文化とふれあい、こころの豊かさが実感できる、誇りある奈良を目指します。

○憩い（観光、景観、にぎわい）
　豊かな風土を守り育て、住む人々に心地よい暮らしを、そして訪れる人々には憩いと安らぎを提供する「おもてなし」の奈良を目指します。

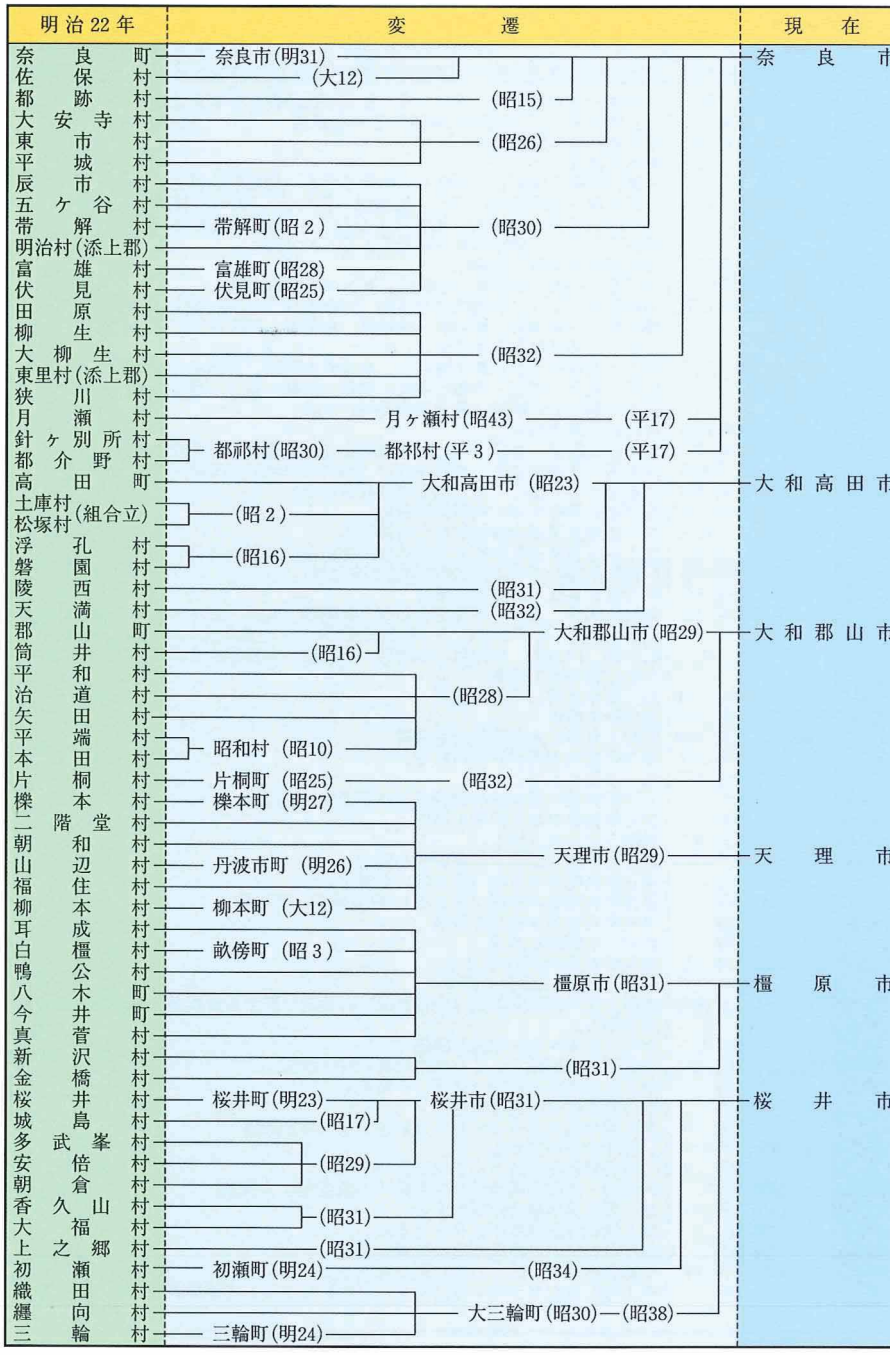
○未来（子育て、学び、環境）
　子どもたちの笑い声があふれ、美しい自然や環境に囲まれた未来の奈良を目指します。

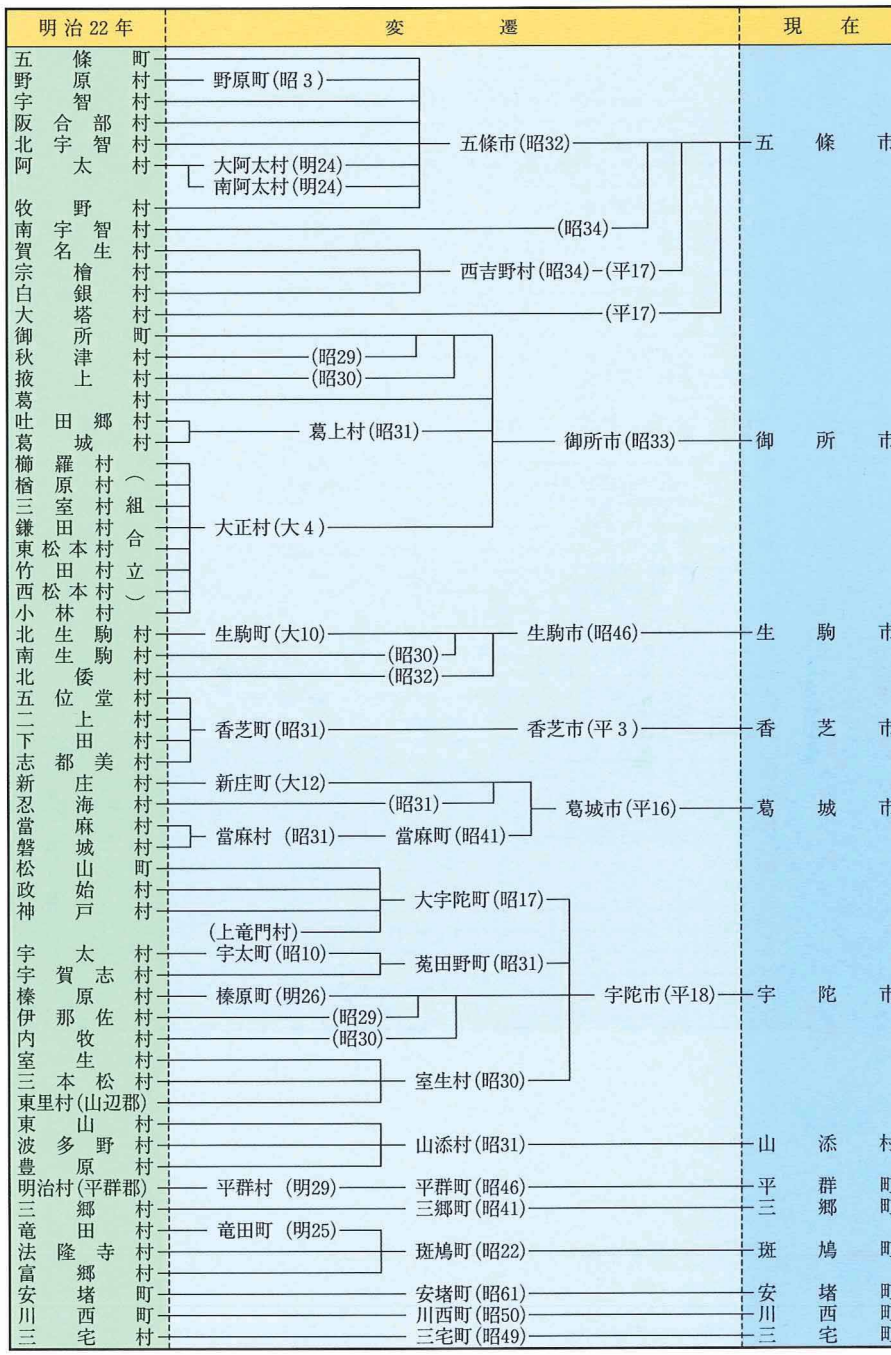
○地域経営（行政経営）
　住民やＮＰＯ、企業、行政などが協働して、地域が有する資源を効果的に使い、さまざまな課題に取り組む奈良を目指します。

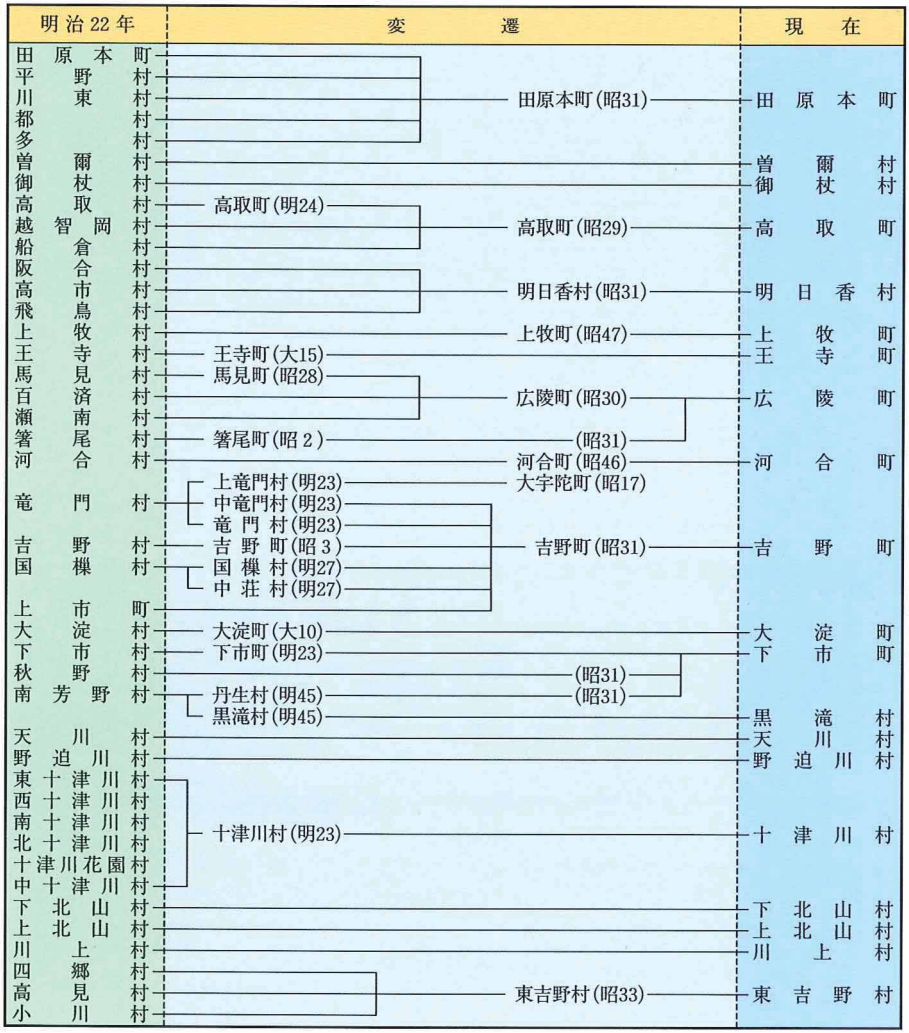
## 奈良県年表

| 西　暦 | 年　月　日 | 事　　項 |
|---|---|---|
| 1868年 | 慶応 4年 1月21日 | 大和鎮台が設置され、のち２月１日大和国鎮撫総督府と改称 |
| | 5月19日 | 奈良県を置き、(知事春日仲襄) これを管領 |
| | 7月29日 | 奈良県は奈良府と改称 |
| | 明治元年 9月 8日 | 明治と改元 |
| 1869年 | 2年 6月17日 | 各藩は版籍を奉還し、それぞれ旧藩を県とし知藩事を置く。 |
| | ～24日 | (郡山県－柳沢氏15.1万石、高取県－植村氏2.5万石、柳本県・芝村県－織田氏各１万石、櫛羅県－永井氏１万石、小泉県－片桐氏1.1万石、柳生県－柳生氏１万石、田原本県－平野氏１万石の８県) |
| | 7月17日 | 奈良府は奈良県と改称 |
| 1870年 | 3年 2月27日 | 奈良県の一部 (旧宇智、吉野郡) を分け五條県を置く。 |
| 1871年 | 4年 7月14日 | 廃藩置県により大和国内に奈良県、五條県のほか、郡山県、高取県、小泉県、柳生県、田原本県、柳本県、芝村県、櫛羅県、和歌山県、津県、久居県、壬生県、大多喜県が誕生する。 |
| | 11月22日 | 奈良・五條を含む15県を廃止し、奈良県を設置、県内を添上・添下・平群・山辺・式上・式下・十市・宇陀・高市・広瀬・葛上・葛下・忍海・宇智・吉野の15郡に分け統轄 (県令四条隆平) する。 |
| 1876年 | 9年 4月18日 | 堺県に合併される。 |
| 1881年 | 14年 2月 7日 | 堺県が大阪府に合併され、大和15郡を４連合郡役所で所管 |
| | 11月29日 | 大和国一覧表によると15郡261町1,333村で戸数99,005戸、476,709人 |
| 1887年 | 20年11月 4日 | 大阪府から分離して奈良県が再設置される。 |
| | 12月 1日 | 奈良県が開庁する (知事に税所篤)。 |
| | 27日 | 第１回奈良県議会議員35名の当選告示 |
| 1888年 | 21年 1月 9日 | 第１回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれる。 |
| 1889年 | 22年 4月 1日 | 町村制が施行される (10町142村２組合村)。 |
| 1895年 | 28年12月15日 | 県庁舎が落成し移庁式を奉行 |
| 1897年 | 30年 8月 1日 | 郡制の実施、添下・平群を合わせて生駒郡、式上・式下・十市を合わせて磯城郡、広瀬・葛下を合わせて北葛城郡、葛上・忍海を合わせて南葛城郡とし、添上郡、山辺郡、宇陀郡、高市郡、宇智郡、吉野郡を合わせて10郡となり、各郡に郡役所を設置 |
| 1898年 | 31年 2月 1日 | 添上郡奈良町に市制を施行 |
| 1926年 | 大正15年 7月 1日 | 郡役所を廃止 |
| 1942年 | 昭和17年 7月 1日 | 県内７カ所に地方事務所を設置 |
| 1947年 | 22年 4月 5日 | 初の公選知事選挙が行われる。 |
| 1955年 | 30年 9月17日 | 地方事務所を廃止 |
| 1956年 | 31年10月 | 吉野熊野特定地域総合開発計画が閣議決定される。 |
| 1963年 | 38年11月 | 奈良県新総合開発計画を策定 |
| 1965年 | 40年 3月18日 | 新県庁舎が竣工する。 |
| 1968年 | 43年 3月 | 第２次奈良県新総合開発計画を策定 |
| 1973年 | 48年 3月 | 奈良県長期基本計画 (第３次) を策定 |
| 1978年 | 53年 3月 | 奈良県長期基本計画 (第３次) 〔修正計画〕 を策定 |
| 1984年 | 59年 4月 | 奈良県長期基本構想を策定 |
| | 9・10月 | わかくさ国体を開催 |
| 1987年 | 62年11月 4日 | 奈良県置県100年を迎える。 |
| | 12月 1日 | 第200回奈良県議会を開催 |
| 1988年 | 63年 3月28日 | 関西文化学術研究都市 (奈良県域) の建設に関する計画が内閣総理大臣の承認を得る。 |
| | 4～10月 | なら・シルクロード博を開催 |
| 1991年 | 平成 3年10月 1日 | 香芝町の市制施行により10市20町17村となる。 |
| 1992年 | 4年 2月 | 奈良県長期基本構想 (修正) を策定 |
| 1995年 | 7年 4月 | 奈良県新総合計画を策定 |
| | 9月 | 第８回全国スポーツ・レクリエーション祭を開催 |
| 1996年 | 8年 7月 | 県分庁舎が竣工する。 |
| | 8月 | 情報公開制度がスタートする。 |
| 1998年 | 10年 4月 | 朱雀門・東院庭園復元記念事業「平城京'98」を開催 |
| 1999年 | 11年 4月 | 単一農業協同組合が誕生する。 |
| 2000年 | 12年10月 | 個人情報保護制度がスタートする。 |
| 2001年 | 13年 3月 | 奈良県新総合計画後期実施計画を策定 |
| 2006年 | 18年 1月 1日 | 平成の市町村合併で12市15町12村となる。 |
| | 3月 | やまと21世紀ビジョン及びやまと21世紀ビジョン実施計画(2006～2010)を策定 |

## 市町村変遷表


明治22年
変遷
現在
奈良町
佐保村
都跡村
大安寺村
東市村
平城村
辰市村
五ケ谷村
帯解村
明治村(添上郡)
富雄村
伏見村
田原村
柳生村
大柳生村
東里村(添上郡)
狭川村
月瀬村
針ヶ別所村
都介野村
高田町
土庫村
松塚村
(組合立)
浮孔村
磐園村
陵西村
天満村
郡山町
筒井村
平和村
治道村
矢田村
平端村
本田村
片桐村
櫟本村
二階堂村
朝和村
山辺村
福住村
柳本村
耳成村
白橿村
鴨公村
八木町
今井町
真菅村
新沢村
金橋村
桜井村
城島村
多武峯村
安倍村
朝倉村
香久山村
大福村
上之郷村
初瀬村
織田村
纒向村
三輪村
奈良市(明31)
(大12)
(昭15)
(昭26)
帯解町(昭2)
(昭30)
富雄町(昭28)
伏見町(昭25)
(昭32)
月ヶ瀬村(昭43)
(平17)
都祁村(昭30)
都祁村(平3)
(平17)
大和高田市(昭23)
(昭2)
(昭16)
(昭31)
(昭32)
大和郡山市(昭29)
(昭16)
(昭28)
昭和村(昭10)
片桐町(昭25)
(昭32)
櫟本町(明27)
丹波市町(明26)
天理市(昭29)
柳本町(大12)
畝傍町(昭3)
橿原市(昭31)
(昭31)
桜井町(明23)
桜井市(昭31)
(昭17)
(昭29)
(昭31)
(昭31)
初瀬町(明24)
(昭34)
大三輪町(昭30)
(昭38)
三輪町(明24)
奈良市
大和高田市
大和郡山市
天理市
橿原市
桜井市

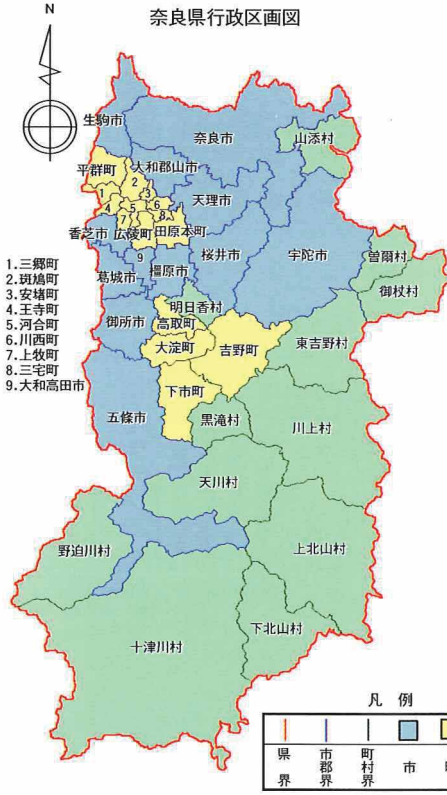

明治22年
変　　遷
現　在
五條町
野原村
野原町(昭3)
宇智村
阪合部村
北宇智村
五條市(昭32)
五條市
阿太村
大阿太村(明24)
南阿太村(明24)
牧野村
南宇智村
(昭34)
賀名生村
宗檜村
白銀村
西吉野村(昭34)-(平17)
大塔村
(平17)
御所町
秋津村
(昭29)
掖上村
(昭30)
葛村
吐田郷村
葛城村
葛上村(昭31)
御所市(昭33)
御所市
櫛羅村
楢原村
三室村
鎌田村
大正村(大4)
東松本村
竹田村
西松本村
小林村
(組合立)
北生駒村
生駒町(大10)
生駒市(昭46)
生駒市
南生駒村
(昭30)
北倭村
(昭32)
五位堂村
二上村
下田村
志都美村
香芝町(昭31)
香芝市(平3)
香芝市
新庄村
新庄町(大12)
忍海村
(昭31)
葛城市(平16)
葛城市
當麻村
當麻村 (昭31)
當麻町(昭41)
磐城村
松山町
政始村
神戸村
大字陀町(昭17)
(上竜門村)
宇太村
宇太町(昭10)
宇賀志村
菟田野町(昭31)
榛原村
榛原町(明26)
宇陀市(平18)
宇陀市
伊那佐村
(昭29)
内牧村
(昭30)
室生村
三本松村
室生村(昭30)
東里村(山辺郡)
東山村
波多野村
山添村(昭31)
山添村
豊原村
明治村(平群郡)
平群村 (明29)
平群町(昭46)
平群町
三郷村
三郷町(昭41)
三郷町
竜田村
竜田町 (明25)
法隆寺村
斑鳩町(昭22)
斑鳩町
富郷村
安堵町
安堵町(昭61)
安堵町
川西町
川西町(昭50)
川西町
三宅村
三宅町(昭49)
三宅町


明治22年
変　　遷
現　在
田原本町
平野村
川東村
都村
多村
田原本町(昭31)
田原本町
曽爾村
曽爾村
御杖村
御杖村
高取村
高取町(明24)
越智岡村
船倉村
高取町(昭29)
高取町
阪合村
高市村
飛鳥村
明日香村(昭31)
明日香村
上牧村
上牧町(昭47)
上牧町
王寺村
王寺町(大15)
王寺町
馬見村
馬見町(昭28)
百済村
瀬南村
広陵町(昭30)
広陵町
箸尾村
箸尾町(昭2)
(昭31)
河合村
河合町(昭46)
河合町
大字陀町(昭17)
上竜門村(明23)
竜門村
中竜門村(明23)
竜門村(明23)
吉野村
吉野町(昭3)
吉野町(昭31)
吉野町
国樔村
国樔村(明27)
中荘村(明27)
上市町
大淀村
大淀町(大10)
大淀町
下市村
下市町(明23)
下市町
秋野村
(昭31)
南芳野村
丹生村(明45)
(昭31)
黒滝村(明45)
黒滝村
天川村
天川村
野迫川村
野迫川村
東十津川村
西十津川村
南十津川村
北十津川村
十津川花園村
中十津川村
十津川村(明23)
十津川村
下北山村
下北山村
上北山村
上北山村
川上村
川上村
四郷村
高見村
小川村
東吉野村(昭33)
東吉野村

## 行政区画

市町村数
１２市１５町１２村

奈良県行政区画図




## 位置

近畿の屋根といわれる山岳地帯を南部に持つわが奈良県は、わが国のほぼ中央部、紀伊半島の真ん中に位置し、周囲を山岳に囲まれた内陸県です。

| | 経緯度 | 位置 |
|---|---|---|
| 東端 | 東経136度13分 | 宇陀郡御杖村大字神末 |
| 西端 | 東経135度32分 | 吉野郡野迫川村大字弓手原 |
| 南端 | 北緯 33度51分 | 吉野郡十津川村大字竹筒 |
| 北端 | 北緯 34度47分 | 生駒市高山町 |

（経緯度の表記を、日本測地系から世界測地系に変更しました。）

両極間の距離　東西　78.5km　南北　103.6km
県庁所在地　奈良市登大路町３０番地

## 面積

奈良県の面積は、全国面積（377,914.78㎢）の約１％の3,691.09㎢です。

吉野郡十津川村は、本県最大の巨村で県総面積の18.2％を占め、672.35㎢です。また、本県最小は、磯城郡三宅町で4.07㎢です。（数値は平成17年10月１日現在）

| | 面積 | 割合 |
|---|---|---|
| 奈良県 | 3,691.09㎢ | 100.0％ |
| 市部 | 1,024.59㎢ | 27.8％ |
| 郡部 | 2,666.50㎢ | 72.2％ |

## 地形

本県の地形は、吉野川に沿ってほぼ東西に走る中央構造線により、南部山地（吉野山地）と中央低地（北部低地）に分かれています。

北部低地帯は、瀬戸内陥落地帯の東部にあたり、断層により陥落した地溝盆地である奈良盆地を中心に、これをとりまいて生駒・葛城・笠置の各山脈、竜門山塊、奈良丘陵の山地からなっています。奈良盆地は南北30km、東西16km、面積約300㎢で、海抜40～60ｍの非常に平坦な沖積層からなっています。河川は盆地の東南隅より流出する初瀬川を主流として、四周の河川を合して大和川となり、生駒金剛山脈を横断して大阪平野へ流出しています。

奈良盆地東側に隣接している大和高原地区は海抜400～500ｍの高原です。また、宇陀山地は竜門山塊の東に位置し、標高100ｍ前後の複雑な丘陵地帯をなし、宇陀盆地と高見山麓、室生火山群地帯とからなっています。

紀伊半島
提供：財）リモートセンシング技術センター

南部山岳地帯は本県の南部一帯を占める山岳地帯で、東は台高山脈を隔て三重県に、南西は和歌山県に、北辺は竜門山塊によって奈良盆地、大和高原地区に接しています。中央部は大峰山系によって十津川流域と北山川流域とに分けられ、大台ヶ原、伯母ヶ峰、山上ヶ岳、大天井岳、武士ヶ峰、天辻峠を連ねる横断山脈によって吉野川流域と分水嶺をなしています。大台ヶ原や大峰山脈は山岳美、渓谷美に富み、吉野・熊野国立公園に指定されています。

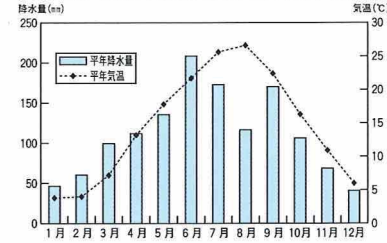
## 地　　質

西南日本における地体構造線である中央構造線は、本県のほぼ中央部を東西に貫通しています。このため、本県は地質構造上南北の二部分に分かれ、それぞれ西南日本の外帯（南部山地）、内帯（北部低地）に属しています。これらの両地帯を構成する諸岩層はさらに古期、新期の二種類に分けることができます。従って、本県の地質は基本的には北大和（内帯）、中央帯、南大和（外帯）に三大別され各部分には古期岩層と、新期岩層とがあるので、結局六つの単元に分けられます。(参考文献：堀井甚一郎著「奈良県地誌」)

## 気　　象

本県の気候はその地形と同様南北で大きく相違します。気候区分によると吉野川を境として、南部は山岳で占められ山岳性気候、北部は盆地で内陸性気候です。東部山地は内陸性気候と山岳性気候の特徴を兼ねています。即ち、南部の山地は夏に雨が極めて多く、時には局地豪雨が起こり、冬はきびしい冬山の様相を呈し、積雪もかなり深くなります。一方、奈良盆地はおおむね雨は少なく、夏はむし暑く、冬は底冷えが厳しくなります。全般的には、台風のような大きな現象による影響よりも、むしろ地形の複雑さによる大雨、河川の氾濫、山・がけ崩れ等の災害と局地的な強風が目立っています。また盆地、高原地方では夏の干ばつ、冬の夜間冷却による異常低温、霜及び霧の発生等の気象災害もしばしば起こります。

奈良市の月別平均気温と月間降水量(平年値)




(注)平年値とは1971年から2000年の平均
資料：奈良地方気象台

## 人　　口

石器の材料サヌカイトの産地二上山をもつ奈良県では、旧石器時代からすでに人々が活動していたことが知られています。

先史時代の遺跡数から人口を推計した研究によれば、近畿の人口は縄文時代にほぼ300～4,400人の間で推移していましたが、弥生時代には108,300人程に急増したとされています。本県の人口の推移もこれと軌を一にしていたとみられ、稲作の普及と共に人口が急増し、後の大和朝廷成立を促す社会的・経済的な基盤を確立していったのであろうと思われます。

大和に朝廷が成立し、政治・文化の中心地となると、その都の人口は巨大なものとなりました。藤原京の人口は１～３万人といわれ、これに続く平城京は少なくみると７万人前後、多く見積もって20万人の人口を持ったといわれています。仮に20万人説をとるならば、平城京内の人口密度は、14,000人／㎢程になり、唐の長安よりやや少なく、平成17年の大阪市（11,843人／㎢）より多くなります。７万人程であったとしても奈良の都は当時世界有数の大都市であったことに変わりありません。

また、奈良時代の平城京を除く大和の人口については13万人説と６万５千人説とがあります。当時の政府が必ずしも全ての人々を把握していないため、実際の人口はどちらの推計でももう少し多かったであろうと考えられます。

中世の人口は史料がないため知ることができませんが、江戸時代になると八代将軍徳川吉宗の時代の享保６年（1721）から始められた全国人口調査があります。第２回は同11年に実施され、以後６年毎に行われました。この調査は、武士の人口や年少者の人口が除かれていることなどいくつかの問題があり、実際の人口より幾分過小であると思われます。しかし、現存している史料によって計10回分の大和国の人口を知ることができます。

享保６年の413,331人を100とすると、天明6年（1786）には81.4（336,254人）にまで減少しましたが、文化・文政の頃から増加に転じ弘化３年（1846）には87.4（361,157人）にまで回復しています。

明治の初めには、本県の人口もほぼ実勢に近くなり、明治５年（1872）には423,004人となっています。奈良県再設置当時の明治20年（1887）には、491,185人であり、幕末以来の人口増加がさらに進んだことを示しています。

大正９年（1925）の第１回国勢調査の人口は564,607人であり、明治５年から約半世紀の間に33.5％の増加を示しました。

その後、人口は60万人程度で安定していましたが、昭和20年代には戦時中の疎開者、戦後の引き揚げ者の流入にベビーブームが重なったため、一挙に80万人近くに増加しました。昭和35年以降には盆地部での過密化と山間部の過疎化が同時に進行しましたが、県全体としては著しい人口の増加をみることになります。国勢調査で対前回調査からの増加率をみると昭和45年で12.6％、昭和55年で12.2％の高い伸びを示しました。

しかし、昭和60年には7.9％、平成２年には5.4％、平成７年には4.0％と鈍化傾向が進み、平成17年国勢調査速報値（要計表による人口）では人口は1,421,367人で増加率は△1.5％となり、昭和30年以来初めてマイナスとなりました。このように、本県では、昭和38年以来、北西部地域が大阪という大都市の通勤圏として宅地開発が進んだこともあり、大阪を主とする他府県からの人口の流入が進み、40年代、50年代には高い転入超過を示していましたが、近年は、少子化の進行や県外からの転入者の減少などの影響により、伸び率は減少に転じています。

住民基本台帳人口移動報告によると、平成２年以降は転入超過数も減少傾向にあり、平成10年には36年ぶりに転出超過に転じ、平成16年も７年連続で転出超過になりました。

※明治15年～大正４年は現住人口、大正９年～平成12年は国勢調査平成17年は国勢調査（要計表による人口）

## 産　　業

**【農　業】**

奈良県では、恵まれた気象条件や高い生産能力を活かして、古くから農業が発達してきました。奈良盆地には雨が少ないことから多くのため池が造られ、近世には、米の他に綿や菜種、たばこ等の商品作物が盛んに栽培され、「田畑輪換」と呼ばれる水田畑作の営農形態が確立されていました。現在は、京阪神大消費地への至近性を活かしながら高度な栽培技術を駆使した農業が行われており、県勢の発展にとって重要な役割を担っています。

大和平野地域では、米をベースに、野菜（いちご、トマト、なす、ほうれんそうなど）や「花き」（きく、ばらなどの切り花やシクラメンをはじめとする鉢花など）の収益性の高い施設栽培が盛んに行われています。

大和高原地域では、国営で開発された農地を中心に夏期冷涼な気象条件を活かしたお茶や高原野菜の生産が盛んであり、畜産や植木栽培も行われています。

また、五條吉野地域の北部でも、国営で開発された農地を中心にかきやうめなどの果樹栽培が盛んであり、かきは全国屈指の産地となっています。また、南部ではワサビ、山菜、きのこなど地域の特性を活かした特産品の生産が行われています。

県では、平成18年度に、新たな中長期計画となる「(仮称)奈良県農林振興ビジョン」を策定し、新たな時代にふさわしい農林施策を展開していきます。

**主要農産物の生産量・算出額（平成16年）**

| | 生産量（t） | 算出額（億円） | 生産額全国順位 |
|---|---|---|---|
| か　　き | ２６，４００ | ５８ | 2 |
| 荒茶（加工） | ２，９２０ | １７ | 7 |
| い　ち　ご | ４，３９０ | ３４ | 13 |
| な　　す | ８，２２０ | １８ | 15 |
| ほうれんそう | ５，１５０ | ２３ | 14 |
| 切り花きく | ５，１００万本 | １９ | 8 |
| 米 | ５１，０００ | １２４ | 41 |

資料：近畿農政局奈良統計・情報センター

【林　業】

本県の林業は、県総面積の77％を占める恵まれた森林と豊富な木材の蓄積を背景に、山村地域の基幹産業の一つとして重要な地位を占めています。

吉野地方では足利末期(1500年頃)に造林が行われた記録があり、森林の半数以上がスギ・ヒノキで占められています。明治時代には、多くの村外の地主が林業経営にのりだし、早くから民有林林業が発展してきました。本県の林業は、地質と気象条件に恵まれているうえ、密植多間伐という独特な育林方法がとられているため、今では民有林１ha当たりの蓄積量は全国平均の1.4倍になっています。また、木材の輸送方法も筏流しから陸送に移ったことにより、吉野・桜井地域に木材工場が発達してきました。

しかし、昨今の森林・林業を取り巻く情勢は、木材需要の低下や木材価格の低迷などから、間伐をはじめとする適切な施業が行われない森林が増えており、造林面積及び伐採面積が年々減少しています。さらに、森林所有者の高齢化と世代交代による経営意欲の減退及び林業労働者の減少など、厳しい状況下にあり、このままでは森林の担っている多様な公益的機能が十分に発揮されなくなると懸念されています。

森林は、木材等の林産物を生産する機能のほか、土砂の流出や崩壊を防ぐ機能、洪水や渇水を緩和し水質を浄化する機能、二酸化炭素を吸収し貯蔵する機能など多様な公益的機能を有し、私達の生活に幅広い恵みを与えています。

このため、森林の持つ多様な公益的機能が持続的に発揮されるよう、区分に応じた適切な森林整備や保全を進め、持続可能な森林経営や森林環境整備を推進していくことが求められています。

本県では「森林の有する多面的機能の発揮と林業・木材産業の持続的かつ健全な発展」を林政の目標に掲げ、諸施策を総合的に実施し、森林の整備や林業・木材産業の振興並びに山村地域の活性化に積極的に取り組んでおります。

【商　業】

江戸時代には門前町であった奈良町、郡山藩の城下町として栄えた郡山が、最盛期にはそれぞれ２万人以上の人口をもつ二大商業中心地でした。高田、御所なども農村加工品の流通の中心地として発展していました。しかし、このころから奈良県は大阪の経済圏に包含され、本県全体を掌握する中心地はできず、時代が明治に至ってもこの状態は変わりませんでした。

明治25年の関西線の開通、大正３年の大軌電車（現在の近畿日本鉄道）上本町～奈良間の開通をはじめとする鉄道網の整備は観光客を増やし、新たな商店街の形成をみるところもありました。

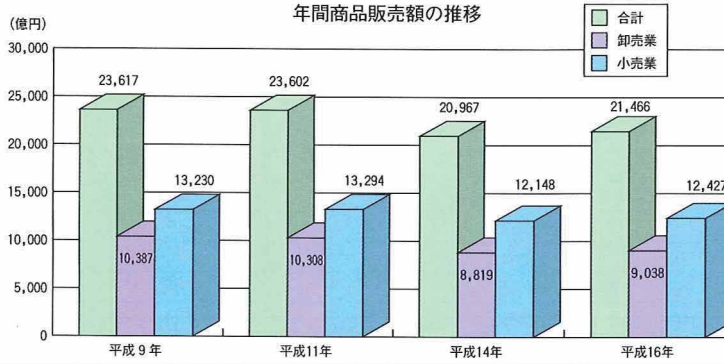
しかし、当時の商業は主に農家を相手の小規模なものが多く、大正時代には米価の下落の影響で打撃を受けるものもありました。昭和５年の国勢調査によると、商業従業者（当時の職業分類）のうち、家族の補助も受けず自分一人で営業しているものが32％も占めていました。

昭和９年には県内４銀行が統合して南都銀行が生まれ、28年には三栄相互銀行（後の奈良銀行，現りそな銀行）が奈良市に設立され、本県に支店を持つ県外の銀行とともに奈良県の商業の発展に貢献しています。

昭和40年代以降、大阪等からの人口の流入が著しく、こうした傾向は購買力を高め、商品販売額の増加に結びつきました。また、平成16年の商業統計によれば、本県小売業の年間商品販売額は１兆2,427億円で、景気が停滞するなかで、前回調査に比べ増加しています。

また、今日の中小小売商業を取り巻く環境は、消費者ニーズの多様化・高度化、モータリゼーションの進展、都市構造の変化による都市中心部の既存商店街と郊外の新商業集積との競争の激化などにより、厳しさを増しています。

これからの奈良県の商業の発展のためには、単なる買い物の場のみではなく、人と人とがふれあい・憩い・集う「暮らしの広場」としての商店街づくりなどが求められています。




資料：県統計課「商業統計調査結果報告書」

【工　業】

奈良県の工業の中には墨・筆・和紙・薬・漆器・素麺・清酒・茶筌・割箸・赤膚焼など、江戸時代、あるいは古代、中世にまでさかのぼる長い伝統をもつものが多くあります。

江戸時代には、奈良晒や綿織物に代表される都市手工業や農村工業が発達していました。明治７年(1874)には、奈良県は全国の中で、農具が４位、綿糸が５位、綿織物が７位、菜種油９位の生産をあげ全国でも先進的な地域に属していました。そのため資金が豊富で明治16年（1883）には早くも近代的紡績工場が設立されましたが、この工場は石炭の入手や、営業面でおもわしくいかず廃業となりました。

明治26年（1893）、同29年（1896）に新たな近代的紡績工場がそれぞれ設立、同27年に電気・同44年にガスの供給がはじまるなどめざましく近代化していきました。

しかし、奈良の位置が東西幹線からはずれていたこともあり、工業生産額が農業生産額を上回るのは大正８年（1919）にもちこされました。

昭和のはじめには、紡績業の生産は安定し木綿や絣から変わったメリヤス、貝ボタン、靴下、皮革などの地場産業の形成も進みましたが、戦争のために挫折するものが多くありました。

戦後、奈良県も復興の途につきましたが、本県の工業は農村に基盤をおく零細規模の軽工業が多く、昭和30年代の高度成長期にも繊維、木材、食品等の業種が大きなウエイトを占めていました。本県は内陸に位置し港湾を持たないので、重化学工業には工場立地の上で制約が大きかったためです。このため、昭和30年代末から県では工業団地の開発に取り組み、内陸型工業の誘致・育成に努めるとともに県内工業の活性化をめざし中小企業団地の開発を支援してきました。

昭和40年代に入って、昭和工業団地等が本格的に操業を開始すると、一般機械、電気機械等の製造品出荷額等は飛躍的に増加し、その占める割合は昭和40年代初めまで、20％以下だったのが、昭和60年には30％を超えました。

奈良県の地場産業としては、靴下・ニットなどの繊維、木材、機械金属をはじめ、プラスチック形成、毛皮革製品、サンダル、スポーツ用品などがありますが、最近は、創業や経営革新への支援体制が整備され、県内の起業化シーズの発掘、育成や、県外企業の進出を促進することなどによる産業集積が図られています。

**製造品出荷額等上位５業種の変遷**

（注）統計処理上「一般機械」から「電気機械」への移動が発生したため「一般機械」の金額が12年は大幅に減少しました。14年より「電気機械器具製造業」は「電気機械器具製造業」、「情報通信機械器具製造業」、「電子部品・デバイス製造業」へ３分割されました。

資料：県統計課「奈良県工業統計調査結果報告書」

# 文化・観光

豊かな自然と世界に誇る重要な文化遺産に恵まれている奈良県は、古代から政治の中心として、大陸からの文化を積極的に取り入れてきました。特に古墳時代、飛鳥時代、奈良時代には遣隋使・遣唐使等の国際交流を通じて日本文化の基礎を築きあげ、さらに中世には、社寺・町屋を中心に能・狂言の発祥地として、日本文化の発展に貢献してきました。

また、近世から明治・大正・昭和にかけて多くの時代を代表する人物が、奈良の豊かな自然とそこに住む人々が育んできた伝統文化を賛美してきました。奈良は、「日本人の心のふるさと」であり、世界に誇り得る日本文化の中心となっています。

本県では、こうした先人が育み培ってきた貴重な文化遺産や歴史的風土の保存を図るとともに、「世界に光る奈良県づくり」をめざして、県民参加による新たな文化芸術の創造と発信に努めているところです。

本県の観光には、奈良盆地を中心とした史跡・古社寺などの文化財などをめぐる観光と、山岳地域の自然に親しむ観光の二つの面があります。

まず、「法隆寺地域の仏教建造物」と「古都奈良の文化財」の二つの世界遺産に代表される古社寺には、飛鳥・天平などの各時代を代表する仏像や建築物が数多くあり、そのほかにも、飛鳥・藤原・平城の宮跡などの史跡も多く、歴史の舞台を訪れる人々は後をたちません。

さらに、「万葉集」を中心とする古代文化に関する総合文化拠点として、平成13年９月に明日香村で開館した県立万葉文化館には、県内外から多くの人々が訪れ、中南和地域の主要な観光スポットとなっています。

また、南部には千年以上の歴史をもつ吉野山の桜や登山・ハイキング客でにぎわう大台ヶ原・大峰山系などの雄大な自然、十津川温泉や洞川温泉などに代表される数多くの温泉があり、このうち吉野・大峯の霊場と大峯奥駈道・熊野参詣道小辺路などからなる「紀伊山地の霊場と参詣道」は、平成16年７月に世界遺産に登録されました。

このような三つの世界遺産をはじめとして、本県には毎年多くの観光客が訪れていますが、余暇の重要性が見直されている昨今、観光需要は今後さらに質・量ともに高くなるでしょう。こうした中で奈良県はますますその価値を高めつつあります。

平城宮跡／朱雀門

熊野古道小辺路と棚田

長谷寺雪景色

朝やけの曽爾高原

## 主要山岳一覧表

（単位：m）

| 山岳名 | 標高 | 所在地 | 山岳名 | 標高 | 所在地 |
|---|---|---|---|---|---|
| 若草山 | 342 | 奈良市 | 白鬚岳 | 1,378 | 吉野郡川上村 |
| 三輪山 | 467 | 桜井市 | 大台ヶ原山 | 1,695 | 吉野郡上北山村（三重県境） |
| 耳成山 | 140 | 橿原市 | 山上ケ岳 | 1,719 | 吉野郡天川村 |
| 天香具山 | 152 | 〃 | 大普賢岳 | 1,780 | 吉野郡上北山村（天川村境） |
| 畝傍山 | 199 | 〃 | 弥山 | 1,895 | 吉野郡天川村 |
| 生駒山 | 642 | 生駒市（大阪府境） | 八剣山 | 1,915 | 吉野郡上北山村（天川村境） |
| 信貴山 | 437 | 生駒郡平群町 | 仏生嶽 | 1,805 | 〃（十津川村境） |
| 二上山（雄岳） | 517 | 葛城市 | 釈迦ケ岳 | 1,800 | 吉野郡十津川村（下北山村境） |
| 葛城山 | 959 | 御所市（大阪府境） | 涅槃岳 | 1,376 | 吉野郡下北山村 |
| 金剛山 | 1,125 | 〃 | 笠捨山 | 1,352 | 吉野郡十津川村（下北山村境） |
| 倶留尊山 | 1,038 | 宇陀郡曽爾村（三重県境） | 玉置山 | 1,076 | 〃 |
| 三峰山 | 1,235 | 宇陀郡御杖村（〃） | 伯母子岳 | 1,344 | 吉野郡野迫川村（十津川村境） |
| 高見山 | 1,248 | 吉野郡東吉野村（〃） | 護摩壇山 | 1,372 | 吉野郡十津川村（和歌山県境） |
| 竜門岳 | 904 | 吉野郡吉野町 | 牛廻山 | 1,207 | 〃（下北山村境） |
| 国見山 | 1,419 | 吉野郡東吉野村（三重県境） | 冷水山 | 1,262 | 〃 |
| 池木屋山 | 1,396 | 吉野郡川上村（〃） | | | |

資料：国土交通省国土地理院「日本の山岳標高一覧－1003山－」

## 主要河川一覧表

（延長　10,000m以上）　　（平成17年4月1日）

| 河川名 | 延長m | 上流端 | 河川名 | 延長m | 上流端 |
|---|---|---|---|---|---|
| **淀川水系** | **288,790** | | 布留川 | 11,220 | 天理市苣原町 |
| 宇陀川（黒田川を含む） | 26,865 | 大平川合流点 | 岩井川 | 10,150 | 奈良市紀寺町字中谷 |
| 布目川 | 24,000 | 天理市福住町字馬返し | **紀の川水系** | **356,340** | |
| 青蓮寺川 | 16,850 | タコラ川の合流点 | 紀の川（吉野川を含む） | 70,050 | 吉野郡川上村（三公川合流点） |
| 名張川 | 19,950 | オオクタ川の合流点 | 丹生川 | 32,100 | 吉野郡黒滝村大字中戸 |
| 白砂川 | 14,700 | 奈良市横田町 | 高見川 | 22,300 | 吉野郡東吉野村大字杉谷 |
| 笠間川 | 14,400 | 奈良市都祁吐山町 | 津風呂川 | 17,600 | 宇陀郡大字陀町大字栗野 |
| 室生川 | 13,400 | 宇陀郡室生村大字田口元上田口 | 四郷川 | 13,200 | 吉野郡東吉野村大字麦谷 |
| 芳野川 | 13,240 | 宇陀郡菟田野町大字岩端 | 宗川 | 12,000 | 吉野郡西吉野村大字西日裏 |
| 遅瀬川 | 11,800 | 山辺郡山添村大字切幡 | **新宮川水系** | **417,612** | |
| 打滝川（今川を含む） | 10,300 | 奈良市別所町 | 熊野川（新宮川、川迫川・天川・十津川を含む） | 113,700 | 吉野郡天川村大字北角 |
| **大和川水系** | **592,617** | | 北山川 | 52,940 | 吉野郡上北山村大字西原 |
| 大和川 | 43,021 | 桜井市大字小夫地先 | 川原樋川 | 27,800 | 吉野郡野迫川村大字檜股 |
| 曽我川 | 26,896 | 御所市大字重阪 | 西川 | 22,100 | 吉野郡十津川村大字小坪瀬 |
| 寺川 | 23,270 | 桜井市大字鹿路 | 東の川 | 14,500 | 吉野郡上北山村大字小橡 |
| 葛城川 | 23,246 | 御所市大字鴨神 | 上湯川 | 13,200 | 吉野郡十津川村大字上湯川 |
| 飛鳥川 | 22,296 | 高市郡明日香村大字栢森 | 西の川 | 12,900 | 吉野郡下北山村大字池峯 |
| 富雄川 | 21,614 | 生駒市高山町 | 神納川 | 12,300 | 吉野郡十津川村大字杉清 |
| 佐保川 | 14,823 | 奈良市中ノ川町 | 旭川 | 11,100 | 吉野郡十津川村大字旭 |
| 葛下川 | 14,740 | 葛城市南今市 | 中原川 | 11,000 | 吉野郡野迫川村大字上 |
| 竜田川 | 13,239 | 生駒市俵口町 | 小原川 | 10,840 | 吉野郡大塔村大字篠原 |
| 高田川 | 13,045 | 葛城市南藤井 | | | |

資料：県河川課